

島根柔道

平成29年 5月発行

編集 広報部

この広報紙は県柔連HPとリンクしています。
ホームページも積極的にご覧いただき活用を
してください。

Yahoo!Googleなどで「島根県柔道連盟」と検索して
いただければすぐに見つかります。

島根県柔道連盟表彰

- ◎福井 邦昭 氏 (東地区柔道連盟)
- ◎金築 誠 氏 (中地区柔道連盟)
- ◎中村 俊郎 氏 (中地区柔道連盟)
- ◎宮下 兼二 氏 (西地区柔道連盟)
- ◎山口 基昭 氏 (西地区柔道連盟)
- ◎木村 徹 氏 (高体連柔道専門部)
- ◎花本 茂人 氏 (会長・事務局)
- ◎足立 良平 氏 (警察地区柔道連盟)

平成28年度全国警察柔道選手権大会
男子60kg級第3位

◎田中 廉平 選手 (隠岐水産高校)
平成28年度全国高等学校総合体育大会柔道競技
男子60kg級第3位

◎黒崎 美紅 選手 (平田高等学校)
第38回全国高等学校柔道選手権大会 48kg級準優勝

◎佐々木ちえ 選手 (平田高等学校)
第38回全国高等学校柔道選手権大会 63kg級第3位

◎楨原 未来 選手 (松江市立第四中学校)
第47回全国中学校柔道大会新潟大会準優勝

◎田窪 剛共 選手 (開星柔道クラブ)
第13回全国小学生学年別柔道大会5年生
男子45kg級第3位



2016 情熱疾走 中国総体



全国高校総体柔道競技 を終えて

島根県柔連盟会長
山藤 哲夫

平成28年度全国高校総体柔道競技(2016情熱疾走中国総体)は、島根県柔道連盟会員の皆様をはじめ、多くの県民の皆様のご支援・ご協力により無事終了することができました。大会においては、本県選手の活躍も見られ、大会運営もつつがなく終える事が出来ましたことをこの紙面でお借りしお礼申し上げます。

これまで本県では、昭和57年島根国体(くにびき国体)、以降全国中学校柔道大会3回(平成元・13・22年)、全国高校総体2回(平成7・28年)と全国大会を開催してきました。これは、くにびき国体を終えた岩見裕至理事長(元県柔連会長)が「今、国体開催と言う舞台の緞帳を見事に引き上げることが出来た。これからは、ポスト国体という名の外題を、立派に演じなければならない。くにびき国体成功と言う自信は、ポスト国体推進の大きな原動力になると思う。くにびき国体にかけられた団結、情熱、勢力、募金は、いつまでも引き継がれ、より発展させなければならない」と表明され、その意思を引き継ぎこれまで全国大会を開催してまいりました。

また、島根県は2030年頃再び国体を誘致する方向で動いております。島根県柔道連盟としても引き続き国体開催に向け、組織の充実、競技人口の拡大、選手強化を図らなければならないと考えております。まずは、全日本柔道連盟少柔協の協力を得ながら「少年柔道教室」を核として小学生柔道の普及振興に努め、継続した指導・強化を行って国体にあげたいと考えております。

さて、嘉納治五郎師範が創設した柔道は、競技スポーツとして強くなるだけでなく、柔道を通して人格形成を目指した「人間教育」の場でもあります。島根県柔道連盟は、全日本柔道連盟と協力し「柔道マインド(礼節・自立・高潔・品格)」を進めております。特に少年期には柔道の基本である礼法や正確な受け身を身に着け、健康で安全に修行を重ね、社会に貢献できる人間形成を目指しております。そのためにも、私たち指導者は子供たちや保護者の方々と相互の信頼関係を構築し、連携を取ることが必要と考えております。

おわりに、これからも皆様方の期待と信頼にお応えすべく精進してまいります。引き続き温かいご理解・ご支援を戴きますようお願い申し上げます。



美以咲け 君の笑顔と努力の華

平成 28 年度 島根県出雲市開催 全国高校柔道大会を終えて思う事

開星高等学校 柔道部監督 下田 尚

昭和 57 年の『国引き国体』は選手として、平成元年の全国中学柔道（松江市）、平成 7 年の全国高校柔道（浜田市）に続いて、平成 28 年度も上記大会に監督として参加させていただきました。

平成元年の全国中学柔道の時は、まだ 29 歳でした。現役を終えばかりの指導者は、手探り状態で選手を鍛え上げ奇跡の全国 3 位となりました。

平成 7 年には、高校の教員となり 4 年目でした。まだ怖いもの知らずで『行け行け』で臨みベスト 16 止まり。

平成 6 年度（富山県）は予選リーグで東海大相模と大接戦で 0 - 1 『有効』差で敗退する。同大会個人戦では、71 k g で橋本克美が全国優勝をしております。

平成 28 年度は、開星柔道部創部 24 年目で 6 月の中国大会で団体優勝しました。そのメンバーで地元インターハイに臨みました。このメンバーでは、それ迄もいくつもの大会や錬成会での結果から、全国の上位で有る事の確信は持っていました。

しかし、全国の上位校と違う所は、メンバーが 5 人しかいない。補欠の小平は 60 k g の軽量級で減量も有り、とても団体戦では使うのが可哀想でした。

インターハイに出場した選手紹介をします。

先鋒：野口 出身は和歌山県 長身で力もついて 90 k g の中国 1 位。本大会でも活躍したが、最後は、ポイント（技有）先取されてからポイントを取り返すも（有効）追いつけず失点。

次鋒：松村 年中から開星クラブで育てた選手。団体戦は一人舞台で全試合一本勝ち殊勲選手。個人戦でも五位では有ったが、平成 29 年度の選手権やインターハイが楽しみな選手である。

中堅：山口 出身は香川県 73 k g 級で有るが中国大会 2 連覇。団体戦でも使える選手で期待していた。しかし、本大会数日前に右手首の捻挫の大怪我で釣り手が持てず苦戦の連続。

副将：河野 開星中学から高校までポイントゲッターとして活躍してきたが、中学からの腰痛で悩まされ、座薬を入れて練習や試合をしてきた。過酷な遠征などからの疲労溜まっていたものと思われる。本来の力は出せなかった。

大将：金塚 開星クラブで柔道を始め、小学 3 年途中から開星中学・高校と 9 年間地道な努力をして頑張ってきた。ここ一番での力の発揮には驚かされる試合が多々有った。

補欠：小平は、隠岐の島出身で松江四中 一つ上に先輩が居なかったので、2 年間キャプテンとしてチームを引っ張ってきた。率先して稽古やトレーニングに励む姿には感心した。インターハイでは立派な選手宣誓をして見せた。中国大会 2 連覇、全日本 Jr.にも出場した。『小さな巨人』であった。

部員の皆も選手の為によくサポートしてくれました。部員皆で擲んだ団体戦五位でした。

最後に、開星高校が活躍できたのも島根県柔道連盟・高体連柔道部の皆様の応援が有ったからです。強化に専念させて頂き感謝の一言です。

また、大会参加にあたり、出雲の公民館や保護者の家でお世話になり、開星高校保護者・OBなど関係者の皆様には大変お世話になりました。心よりお礼居申し上げます。ありがとうございました。

平成 28 年度 島根インターハイに出場して

島根県立隠岐水産高等学校
柔道部 3年 田中 廉平

僕は今年、島根県で開催されたインターハイに出場することができました。まさか自分がインターハイという大きな舞台に立てるとは思ってもいませんでした。

僕は5歳から柔道を始め、中学校でも柔道部に入っていましたと思うように成績が残せず、高校では違う部活に入ろうと考えていました。しかし、入学前の学校説明会の時に柔道部の顧問の先生から「俺は、お前を強くする覚悟も、自信もある。強くしてやるから柔道部に入らないか」と言われ、先生のその言葉を信じて高校でも柔道をすることに決めました。

中学校でも柔道をやっていましたので、体力には自信があり、練習にもついていけるだろうと思っていましたが、いざ練習に行ってみると思った以上に練習がきつく、3年間やっていける自信が少しなくなりました。けれど、同級生が3人も入部してくれて、しかも高校から柔道を始める初心者が2人もいました。だから自分も負けていられないと奮起したのを覚えています。練習では先輩も強く、何度も何度も投げられ、トレーニングがきつく涙が出そうになる日も少なくありませんでした。

そして、高校に入ってひと月もしないうちに初めての公式戦に出場しました。自分は「負けてもいいから精一杯やろう」と思って試合に臨んだものの1回戦で何もできずに負けてしまいました。その試合はとても悔しくて、今でも忘れられない試合です。その悔しさをバネにこれからは今まで以上に練習に打ち込もうと決意しました。どんなにきつくても、妥協せず負けたことを思い出し、限界まで自分を追い込む練習をしました。夏の暑い日は特に辛かったことを思い出します。入学から半年が経ち、島根県新人高校柔道大会で準優勝しました。練習の成果を感じ、とてもうれしく感じましたが、それで満足している自分がいました。その後、あまり高い意識を持たず、なんとなく練習している日もありました。

2年生になっても、試合ではいつも準優勝で「悔しい」という気持ちがどんどん大きくなってきました。そして「優勝したい」と強く思うようになりました。そう感じ始めた矢先、2か月半の長期航海乗船実習の時期がやってきました。マグロを捕りながらハワイまで行くというもので、柔道の練習はもちろん、揺れる船の上なのでほとんど何もできない期間がありました。日本に帰ってきたときには高校最後の県総体まで半年しかありませんでした。体力も落ち、柔道も忘れていて危機感を持ちましたが、実習を負けた言い訳にたくはありませんでしたので、がむしゃらに練習に打ち込みました。

3年生になり最初の県大会で優勝することができ、その時、「インターハイに出て日本一になりたい！」と思うようになりました。プレッシャーに押しつぶされそうになり、不安を感じる日もありましたが、勝つために、勝てるだけの練習をしてきましたので、すべてを自信に変える事ができました。県総体では準優勝でしたが、インターハイの切符を手にする事ができました。その頃見ているのは「日本一」だけでした。しかし、インターハイの2週間前の中国ジュニア体重別選手権では、何も次に繋がらない今までで最悪の試合をしてしまいました。そこから期間は短かったですけど、組手、体捌きの改善を一からやり直しました。「やった事、出来なかった事、どうすれば出来るか」などを毎日ノートに書き、先生にアドバイスをもらうことにしました。こうして、自分の柔道を一から見直すことによって、万全の状態ですインターハイに臨むことができました。

インターハイの試合当日、緊張はあったけど「やってやろう」という気持ちでいっぱいでした。初戦は2回戦からで、2回戦、3回戦、準々決勝を何とか勝ち上がり、準決勝まで残る事ができました。自分が一番びっくりしていましたが、「日本一」が見えたと思いました。しかし、そう甘くはなく、準決勝で東京の選手に負けました。日本一を目指しここまでやってきたので、悔しい気持ちでいっぱいでした。日本一になる事が色々な人への恩返しだと思っていましたので、申し訳ないと思いました。最後まで自分に期待し、懸命に教えてくださった先生、いろいろな面でサポートしてくれた親はもちろんですが、1番はやっぱり、ずっと一緒に泣いて、笑って、切磋琢磨してきた仲間感謝の気持ちでいっぱいでした。僕を夢の舞台に立たせてくれた柔道。本当に忘れられない最高の夏になりました。



【明日から実践できるスポーツ障害予防】

出雲市民病院

理学療法士・アスレティックトレーナー 妹尾翼

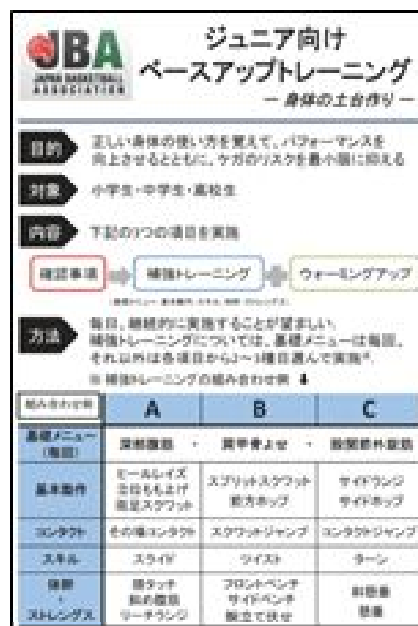
昨年は全国高等学校総合体育大会柔道競技に救護スタッフとして参加させて頂き大変ありがとうございました。普段味わうことのできない緊張感の中での対応は、とても貴重な経験となり、今後トレーナー活動をしていく上で大きな糧となりました。このような大変貴重な機会を与えて下さった島根県柔道連盟の皆様はこの場を借りて深く感謝申し上げます。

今回はスポーツ障害予防がテーマです。障害とは、過度のストレスがかかり続けて慢性的に痛みや炎症などの症状が続くものをいいます。野球肘や野球肩、腰椎分離症、疲労骨折、シンスプリントなどがこれにあたります。障害が生じる原因として、ウォーミングアップ不足、クーリングダウン不足、運動フォームの不良、使い過ぎ(オーバーユース)、成長期特有の問題、栄養の問題、生活習慣など非常に多岐にわたります。今回はこの原因の中からウォーミングアップ、クーリングダウン、栄養に焦点をあてご説明したいと思います。

①ウォーミングアップ

ウォーミングアップの目的は筋温の上昇、柔軟性の向上、神経の活性化、心拍数の上昇です。これらを競技前に獲得することでパフォーマンスが向上し障害予防に繋がります。

筋温が1℃上昇すると細胞のエネルギー代謝率が13%増加するため、筋肉がエネルギーを産み出す能力が高まります。また、筋肉の温度が39℃以上になると筋肉の粘性が低下し筋出力が向上するとともに、神経の伝導速度が上昇しパフォーマンスが向上します。さらに体温上昇に伴い関節内に滑液が分泌され柔軟性が向上するとともに、心拍数上昇に伴い酸素摂取量が増加し有効的に酸素を活用できるようになります。一般的には心拍数を120拍/分程度まで上げると良いとされており、運動強度の目安は「ややきつく感じる」程度の強度になります。ウォーミングアップのメニューとしては、日本サッカー協会が推奨している「11+」や日本バスケットボール協会ホームページ内にある「ジュニア向けベースアップトレーニング ウォーミングアップ」が参考になります。



ジュニア向け
ベースアップトレーニング
— 身体の土台作り —

目的 正しい身体の使い方を覚えて、パフォーマンスを向上させるとともに、ケガのリスクを最小限に抑える

対象 小学生・中学生・高校生

内容 下記の3つの項目を実施

実施順序 基礎トレーニング → ウォーミングアップ

方法 毎日、継続的に実施することが望ましい。
基礎トレーニングについては、基礎メニューは毎朝、それ以外は各項目から1〜3種目を選んで実施。
※ 基礎トレーニングの自編も可。

組み立て方例	A	B	C
基礎メニュー (毎朝)	基礎メニュー + 両手骨寄せ + 股関節外転運動		
基礎動作	ロー・ハイ・ミッド 足踏みもも上げ 側面スクワット	スプリットスクワット 側方ステップ	サイドランジ サイドステップ
コンタクト	その他コンタクト	スタフケットジャンプ	コンタクトジャンプ
大呼吸	スクイーズ	ツイスト	ターン
課題 & ストレッチ	肩アップ 股関節 コアトレーニング	フロントベンチ サイドベンチ 懸垂で決す	肘懸垂 懸垂

②クーリングダウン

クーリングダウンの目的は疲労回復の促進、外傷・障害予防、心理面の緩和です。

激しい運動を急に止めると循環障害によって貧血状態になり、吐き気・めまい・立ちくらみなどの症状がでる可能性があります。また、運動中には筋肉に疲労物質（二酸化炭素や乳酸）が蓄積され、長期的に蓄積されると筋肉の伸張性が低下し障害が発生する可能性が高くなります。クーリングダウンにより運動直後の筋肉に留まった血液を心臓に戻し、血流を正常化することで貧血を予防することができます。また、筋肉中の疲労物質を体外に排出し、疲労回復を促進して心肺機能への負担を軽減させる効果もあります。さらに、身体的な緊張だけでなく心理的な緊張を取り除き、運動後の心地良い状態へと導く作用があります。

クーリングダウンの方法は軽い有酸素運動を行った後に静的ストレッチ（深呼吸をしながら反動をつけずに同じ部位を30秒伸ばす方法）が効果的です。静的ストレッチは各筋肉の硬さを自分で確認しながら行うことができるため、セルフコンディショニングにもとても有効です。

③栄養

障害予防・パフォーマンス向上を考える上で、運動(トレーニング)に見合った栄養(食事)と休養(睡眠)をとることがとても重要です。栄養や休養が不足していれば、どんなに運動を行っても筋力や体力がつかず障害リスクも高まります。また、カロリーや栄養素の摂取量が不足すると無月経や骨密度の低下が生じ将来的に大きな問題を引き起こす可能性があります。

栄養を考える大前提として、まず3食しっかりと食べる事がとても大切です。食事の内容は主食・おかず・野菜・乳製品・果物をバランス良く組み込んだ内容が理想です。

主食で摂取できる糖質(炭水化物)は脳と筋肉のエネルギー源となり筋力や集中力の向上につながります。おかずにはタンパク質と鉄が豊富に含まれているものを選択し、筋肉や血液、その他の身体づくりに必要な栄養素を摂取することで、パワー・スピード・スタミナが向上します。野菜にはミネラル・ビタミン・食物繊維が多いのでコンディショニングに関与します。果物は柑橘系の果物を選択することでビタミンCを多く摂取でき疲労回復の促進につながります。乳製品にはタンパク質とカルシウムが豊富であり、特にカルシウムは骨や歯をつくるとともに生理機能を調整し精神を安定させる役割もあります。

具体的な食事内容については農林水産省ホームページ内にある「食事バランスガイド」が参考になります。

スポーツ障害には多くの要因が絡んでいるため、日頃から注意をし継続して取り組む必要があります。まずは出来る事から実践してみましよう。



全国高等学校柔道選手権大会男子無差別を制して

開星高等学校

松村颯祐

3月19日、日本武道館にて行われた全国高等学校柔道選手権大会男子無差別において、優勝することが出来ました。

これまでを振り返ると、4歳の頃に開星柔道クラブで柔道を始め、小学校6年生の時に全国大会で優勝することが出来ました。しかし、それ以降は中々勝てない日々が続きました。中学3年の春には膝に大怪我を負った結果、手術、入院、リハビリ等で約10カ月はまともに柔道が取り組めない日々もありました。周囲のライバル達が全国大会で活躍する中で悔しさはありましたが、「今に見ているよ、必ず復活する。」と心に刻み、リハビリをしたことが思い出されます。高校2年時には島根インターハイが開催されることもあり、地元インターハイで優勝するという新たな目標を設定し、柔道に取り組みました。結果は残念ながら団体、個人ともに5位という結果で目標達成とはなりませんでしたが、この悔しさをバネに自分の柔道と向き合い取り組む姿勢も改めていきました。

この二つの経験がそれぞれ結果的に自分を成長させるターニングポイントとなった気がします。当時はそれぞれで悔しさしかありませんでしたが、それを原動力にして行動に変えた事がよかったのだと思います。

優勝するために出場したこの大会ですが、1回戦から波に乗ることができませんでした。これまでやってきた事が思うように出せず、警戒されたことにより、うまく相手や自分をコントロールできずにいました。ですが、こういう事が当たり前の全国大会だ、と気持ちを切り替え、リラックスして試合に取り組むと、3回戦以降は波に乗ることが出来たように感じます。準決勝では自分より大きい相手にも完勝でき、決勝では小学校のころから共に競い合った選手と対戦し、そこでも一本勝ちではありませんでしたが、自分の思うような柔道ができました。

優勝して、やっと世界への挑戦のスタートラインに立つことが出来たと思い、自分でも驚くほど歓喜に満ちたものではなく、安堵感と更なる目標達成への思いが湧いてきました。この優勝をきっかけに、これから続くインターハイや全日本ジュニア大会へも優勝しその先の世界戦へとつなげていきたいと思います。

これまでに多くの方々からのサポートがあったおかげでこのような結果が出せ、大変感謝しております。周囲のご協力無くして達成できるものではないとも感じています。自分が更に活躍することが恩返しと思い、今後も精進していきます。ありがとうございました。



1. 登録手続きの要点・・・前年度同様オンライン手続きによる。手続き方法の特段の変更点は無し。

- ① オンライン登録システム ⇒ H27年度から紙申請は廃止済み。各チームからインターネットに接続したPC等により登録情報を入力して申請。
- ② 複数年登録の廃止 ⇒ 平成27年度から廃止済み、小学生～大学生も複数年ではなく1年毎の単年度登録。H29年度に「複数年登録（秋田・山形・静岡・島根のみ）」済の可能性がある対象者は、大学4年生、高専4・5年生のみ。小・中・高校生は全員が複数年登録済には該当しない。
- ③ 「社会人」区分での登録 ⇒ 「社会人」登録は、一般地区チーム・警察・企業等のみで可能。少年団および中学校～大学の団体では登録不可、「役員等」や「学校顧問」の区分で登録。
- ④ 短期間での登録手続き完了 ⇒ ①オンライン登録申請（各チーム登録担当者）、②申請内容承認（県柔連登録部）、③請求処理と収納代行での登録料払込（各チーム登録担当者）の①～③の処理により登録手続きが全て完了。登録事務の進捗管理上、申請着手後に短期間で登録料納付まで完結下さい。登録料納付完了までは未登録状態であり、登録申請と承認のみでは何の効力も発生しません。（申請のみで、請求・払込を未実施のまま長期間放置せず、登録料の納付準備が整ってから、登録申請して下さい。）
- ⑤ 登録手続き用メールアドレス ⇒ 登録申請の承認・却下状況や不備事項等の連絡は、全て各団体の登録責任者として設定されたメールアドレスに届きます。登録手続き中は、頻繁に該当アドレスへの着信有無を確認して下さい。（普段余り使わないメールアドレスは登録手続き用に設定しない。）

2. 登録スケジュール（遅くとも、年内の平成29年12月末までに手続き完了をお願いします）

平成29年度の登録受付開始：平成29年3月10日（金）11：00～

平成29年度分の登録手續締切：平成30年2月末日頃の予定（確定日付は未定、H28年度はH29/2/27 21:00）

*登録規定では：団体・個人登録の申請は、原則5月末日まで、やむを得ない事由があればH30年2月末日（頃）まで可能。公認資格（指導者・審判員）登録は原則9月末日まで申請可。公認資格（指導者・審判員）維持には登録必須、未登録の場合には公認資格（指導者・審判員）が失効します。

3. 各地区登録担当者

県柔連登録本部長：塩村隆信（県産業技術センター）

東地区：天野正道（天野鋳金）	中地区：藤原健次（島根労働局）
西地区：宮下兼二（浜田市柔連）	警察地区：三浦吉治（県警機動隊）
中体連：山内康平（湖南中）	高体連：三浦大治（益田翔陽高）

4. 登録手続きにあたってのお願い

- ・オンライン登録の手続き上の不明な点は、登録システムヘルプデスク、各地区登録担当、県柔連登録担当などに照会下さい。
- ・オンライン登録による申請時の入力情報は、県柔連登録部においてチェックして誤りがあれば連絡して修正・再申請して頂きます。誤データによる登録や、登録料算定の誤りは基本的に起こりません。

【留意事項】

- ①「昇段」、「公認指導者資格関連の講習受講」、「大半の各種大会参加」には、登録が必須とされています。該当者は、早期に登録を完了してください。（特に四段以上への昇段にあたっては、未登録者は登録実績が確認できるまで昇段証書の発行が保留されます。）
- ②全員加入の後遺障害保険の適用開始は登録料の納付完了時点からです。登録手続きが遅くなると、実質の保険対象期間が短くなり不利益を生じます。また任意加入の指導者賠償責任保険も、登録料を納入して指導者登録完了後でないと加入できません。
- ③更新講習の未受講などにより公認指導者資格が失効となっている方は、全柔連公認指導者の区分ではなく、役員等または学校顧問の区分で申請して下さい。

* H29年度～登録システムに【大会運営管理メニュー】が追加予定です。

（詳細は未確認、運用方法については要検討）

公認柔道指導者資格 受講年度ごとの認定年度、有効期間、更新期限および更新方法について

●平成23-24年 移行措置認定者

受講年度	認定年度	資格	有効期間	更新期限	更新方法
平成23～24年度	平成25年度	A指導員	4年間	平成28年度末	都道府県が開催／指定する更新講習会を1回受講 * 2回目の更新からは受講ポイント制となる
		B指導員		平成27年度末	
		C指導員	3年間	平成27年度末	

●講習会を受講し、検定試験に合格し資格を取得された方

受講年度	認定年度	資格	有効期間	更新期限	更新方法
平成25年度	平成26年度	C指導員	2年間	平成27年度末	都道府県が開催／指定する更新講習会を1回受講 * 2回目の更新からは受講ポイント制となる
平成26年度	平成27年度	C指導員	4年間	平成30年度末	更新は受講ポイント制(6ポイント)
平成27年度	平成27年度中	A指導員	4年間	平成31年度末	更新は受講ポイント制(10ポイント)
		B指導員	4年間	平成31年度末	更新は受講ポイント制(10ポイント)
		C指導員	4年間	平成31年度末	更新は受講ポイント制(6ポイント)
		準指導員	2年間	平成29年度末	更新は受講ポイント制(2ポイント)
平成28年度	平成28年度中	A指導員	4年間	平成32年度末	更新は受講ポイント制(10ポイント)
		B指導員	4年間	平成32年度末	更新は受講ポイント制(10ポイント)
		C指導員	4年間	平成32年度末	更新は受講ポイント制(6ポイント)
		準指導員	2年間	平成30年度末	更新は受講ポイント制(2ポイント)

平成29年度 全日本柔道連盟公認指導員養成に 係る講習会並びに公認指導員更新 に係る講習会等の開催について

公認指導者資格制度の規程に基づき、下記に示す公認指導者 準・C・B 指導員養成講習会並びに更新講習会を別添要項のとおり開催します。

また、下記 5 で示すとおり更新講習会未受講等により指導員資格が失効した者に対して、指導員復活の申請が可能となります。

つきましては、関係に周知いただき、受講希望者を各団体(小地区等单位)等で取りまとめ、期限内に開催要項に示す申込先まで、申込みいただくよう周知をお願いします。

関係書類を県柔道連盟 HP よりダウンロードしていただくとその中に 要項・申込用紙 が入っています。なお、C および B 指導員資格取得の希望者は、講習会終了後、検定試験を行い、講習会受講後、1 か月以内に課題レポートの提出が必要となります。

以下項目別に

1 全日本柔道連盟公認指導者C指導員第1回養成講習会 開催について

日時

6月24日(土) 12:00~17:00 5時間

6月25日(日) 8:30~16:30 7時間 計12時間

※6/25 講習会終了後、検定試験 16:45~17:45(1時間)

※準指導員養成講習会及び更新講習会の対象講習会として併催。

場所 島根県立武道館

2 全日本柔道連盟公認指導者準指導員第1回養成講習会 開催について

日時

6月24日(土) 12:00~17:00 5時間

6月25日(日) 8:30~16:30 7時間 計12時間

場所 島根県立武道館

※C 指導員養成講習会及び更新講習会の対象講習会として併催。

3 全日本柔道連盟公認指導者B指導員養成講習会 開催について

1) 第1セッション

日時: 6月25日(日) 8:30~16:30(7時間)

会場: 島根県立武道館(松江市内中原町 52)

☎ 0852-22-5711

2) 第2セッション

日時: 12月2日(土) 12:00~17:00(5時間)

~3日(日) 8:30~15:30(6時間)

会場: 江津市立江津中学校(江津市江津町 1016-1)

☎ 0855-52-2068

※講習会時間数・・・3日間 計18時間

※講習会 12/3 終了後、検定試験 15:45~16:45(1時間)

4 全日本柔道連盟公認指導者第1回更新講習会 開催について

日時

6月24日(土) 12:00~17:00 5時間

6月25日(日) 8:30~16:30 7時間 計12時間

※準及び C 指導員養成講習会を対象の更新講習会として実施する。

※更新は、1 講義 1 ポイントの受講ポイント制となる。

※別添 [別表 2] (受講ごとの認定年度、有効期間、更新期限および更新方法について) より

(1)更新には、C 指導員は最低 6 ポイントの受講ポイント。

A 及び B 指導員は最低 10 ポイントの受講ポイントが必要。

そのため 6/24(土)及び 25(日)の 2 日間(10 ポイント)の受講が望ましい

(資質の向上をめざす島根指導員養成方式)。

(2)準指導員に係る更新は、最低 2 ポイントの受講ポイントが必要となる。ただし資質の向上と C 指導員をめざしてほしい趣旨で 6/25(日)1 日以上を受講を原則とする。

場所 島根県立武道館

5 全日本柔道連盟公認指導者第1回指導者資格登録の復活申請について

復活申請に係る手続き方法

(1)島根県柔道連盟が定める次の①~③にあたる更新講習会を受講する。

①平成29年度第1回公認指導員更新講習会

(6/24(土)・25(日);島根県立武道館)

②平成29年度第2回公認指導員更新講習会

(地域社会柔道指導者研修会に併催)

(10/28(土)・29(日);島根県立武道館):

後日、別途案内、

③平成29年度第3回公認指導員更新講習会

(12/2(土)・3(日);江津中学校):

後日、別途案内

以上から、1 講習会(2 日間)の受講を原則とする。

連絡事項

・参加者は、柔道着を必ず持参してください。
公認指導員(準・C・B)養成講習会並びに更新講習会、そして、復活申請に係る問い合わせ先
《教育普及委員会》

濱岡繁人(携帯:090-4692-2889)

このように様々な連絡にホームページを利用しています。県柔連フェイスブック ツイッターとあわせて定期的に県柔連ホームページをご覧ください。また大会要項等配布にご利用ください。連絡は広報担当までお願いします。

shimanejudo2010@yahoo.co.jp